

平成 2 3 年蔵王町議会定例会 3 月会議が開催されるにあたり、ご審議いただきます平成 2 3 年度蔵王町一般会計当初予算のほか、各議案の説明に先立ち、私の町政運営に対する基本的な考え方を申し述べ、議会の皆様方を始め、町民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げる次第であります。

思い起こせば、町長に就任させていただきましてから、2 期目の折り返しを過ぎ、言わば第 3 コーナーからゴールを目指す位置にいるものと感慨を新たにしているところであります。

この様な時期に、改めて初心に帰り、町民の皆様への負託に応えて行こうと決意を新たにしているところであります。

議会の皆様のご理解とご協力、そして温かいご支援をいただき、町政が順調に執行されますことを切にお願いを申し上げる次第であります。

また、議会の皆さんにおかれましても、「通年議会」は順調に軌道に乗り、議会改革の一環として「議会報告会」の開催など、何かと多忙で大変な1年を過ごされたのではないかと思われまます。

私にとっても議会の皆様におかれましても、二元代表制のもと、町政を預かる者として、その責任の重大さを再認識しているところであります。

さて、一昨年8月の政権交代以来、国の政策は先行きがなかなか見えなく、地域が自由に活用できる「一括交付金」(市町村の交付は平成24年度から)や「雇用促進税制」(法人・所得税の減免)

など不透明な要素もありますが、菅 直人首相が打ち出した国づくりの理念では、「平成の開国」、「最小不幸社会の実現」そして「不条理をただす政治」を挙げております。

環太平洋パートナーシップ（ＴＰＰ）協定について政府は「豪州との交渉を迅速に進め、韓国、ＥＵ及びモンゴルとの経済連携協定交渉の再開・立ち上げを目指し、米国を始めとする関係各国と協議を続け、今年６月を目途に、交渉参加について結論を出します。」とありますが、我が町の現状を見る限り、拙速な協定締結には異論を呈し、意を同じにすることは、出来ないと考えているところであります。

また、直近の日本経済の動向を見ると、景気は、

やや持ち直している傾向にあると言われていますが、高い失業率や下落傾向にある物価水準など依然として情勢は大変厳しいものがあります。

先行きも、雇用環境の一層の悪化や円高、デフレによる景気抑制圧力の拡大、財政悪化に伴う長期金利の上昇などの懸念材料が存在し、予断を許されません。こうした中で国民は、急激な高齢化による老後の生活設計や、日々の生活に不安を抱え、将来への不安はますます増大しております。

中長期的には、経験したことのない少子化・高齢化による生産年齢人口の減少は、かなり前から予測されていましたが、日本社会は人口の減少と超高齢化が同時に進行するという、人類史上例のない事態を迎え、社会保障予算は5%増加することが確実であるほか、地球温暖化をはじめとした、

人類生存に関わる地球規模の脅威に直面していると言っても過言ではありません。

今や、平成23年度の国家予算の公債金(借金)は44兆円にも達し、税収の40兆円より多いと言う非常状態にあります。

また、宮城県の財政状況も非常に厳しく、当然にして、国や県からの負担金・補助金の削減・廃止がされる中で、町の自立のために自らの道を切り開き、出来る限り歳出を削減し、歳入を確保しなければなりません。財政運営環境は依然として厳しい状況にあります。

これらのことから、地方の財政は依然として厳しい状況に直面しており、昨年も申し上げましたが、「あれも、これも」の豊かな時代から限られた財源を有効に活用するため「あれか、これか」

の選択の時代を迎えております。

我が町の経済状況においても、同様に米価や観光客数の低迷、特に宿泊客の減少や商店などにおける個人消費の伸び悩みなどにより、基幹産業の農業や観光等に大きな影響を与えております。

経済成長の下落は個人収入の減に直接影響を及ぼし、可処分所得の減少により、個人消費の伸びは期待されないと危惧されます。

毎年申し上げておりますが、このような状況において、課題は山積してはいますが、私は行政の使命は、この町が「誰もが住んで良かった」と言えるような、安全と安心そして心豊かに暮らせる、健全で活力ある地域社会を町民の皆様と共に歩み、共に汗を流し、「町民協働のまちづくりをめ

ざして」いくことにあると思っております。

今後も、国や県からの負担金・補助金の削減・廃止、また国民健康保険や後期高齢者医療、上下水道事業、そして介護保険における社会保障費の増大により、これら特別会計への繰出金の増加が予想されています。

また、病院改革プランにより、蔵王病院・刈田総合病院の繰り出しなど、我が町の健全財政に少なからず影響を与えており、新たな財政負担を強いられております。

しかしながら、町民の安全・安心を守り、二次医療・緊急医療の中核的病院を維持し、存続させ守って行くことは重要なことと思っております。

このような中、財政を立て直し、健全化を維持して行くということは、非常に重要なことで町民の皆様には、負担が増えたことなどが実感されることが多いと思われませんが、少子高齢化社会における介護・疾病予防など福祉の増進や、生まれてくる子どもが少なくなって、将来の蔵王町が心配される中で、安心して子育ての出来る環境づくり、子ども達の安全の確保と今まで以上に子育て支援の充実を図って行くことは最重要施策の一つと捉えています。

私の基本的行政運営としましては、「第四次長期総合計画」の五本の柱を基本計画として皆様と共に歩んで行こうと思っておりますので、どうか、町民の皆様並びに議会の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。



そして、英断をもって町政を進めて行けば必ずや未来が開けてくるものと信じております。

さて、平成23年度の当初予算編成にあたりましては、東北財務局が1月に発表した管内経済情勢によれば、「管内経済は、厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直してきている・・・。」とされておりますが、この情勢が市町村財政に反映されるまでには、まだ時間を要すると思われるので、引き続き、財政の健全化に向けた町政運営が求められるものであります。

このような中、本年も限られた財源を将来の蔵王町の発展のため、より効果的に執行するため、その基本的な考え方をご説明申し上げます。

本年度も、主要事業を別紙のとおり一覧表として添付させていただきましたので参考にして頂ければ幸いです。

歳入面におきましては、依然として上昇気配の見えない経済情勢や、個人所得の下落が予想されることから、個人町民税では対前年度比5.3%の減、逆に、法人町民税については、地方財政計画を踏まえて、2.1%の微増を見込んだところです。

町税全体の3分の2を占める固定資産税については、土地の地価下落修正を行った結果、4.0%、4,300万円の大幅な減額を見込まざるを得なくなったところであります。

また、地方消費税交付金、地方特例交付金については、子ども手当などを考慮し、増額し、自動車取得税交付金、地方譲与税は現在の内需の状況を考慮し、減額し、その他の交付金については、前年度とほぼ同様な額を計上しました。

地方交付税につきましては、政府は平成23年度の普通交付税の増額を対前年度比5,000億円としておりますが、特別交付税の制度改正が実施されることから、前年度より普通・特別、合わせて1億7,000万円の大幅な増加を見込んで

おります。

最後に、多様化し、増加する財政支出需要に対処するため、財政調整基金繰入金を前年度より、14.3%、8,000万円増の1億5,000万円を取り崩して、平成23年度予算の総額では新規事業を含めまして、4.5%、2億3,000万円増の53億7,000万円としたところであります。

次に、歳出予算における主な事業について、ご説明申し上げます。

最初に、議会関係では、本年6月に議員年金制度の大幅な改正が実施されることに伴い、議員共済会給付費特別負担金4,200万円を当初予算にて計上いたしております。

前年度に「地域活性化・公共投資臨時交付金基金」として積み立てを行った基金を活用して、「太陽光追尾型発電装置工事」・「円田中学校大規模改良工事」及び「蔵王球場」を20年ぶりに改修・改良工事を行い、産業の活性化と環境対策の推進を図ってまいります。

また、企業奨励金制度を見直し、対象事業所等の拡大、及び地元町民の雇用要件条項を追加して雇用奨励金を企業に交付できるよう、改正し、企業立地候補地の調査選定と各種調整を行い、地域

振興と企業の活性化や、雇用の確保を図ってまいります。

更に、国の「地域人材育成事業」・「緊急雇用創出事業」・「ふるさと雇用再生事業」及び「重点分野雇用創出事業」を活用して、延べ64名の雇用を、直接或いは間接的に確保して、観光・農林水産・環境の美化・生涯スポーツの推進・こけし工人の育成や町内小・中学校の児童・生徒・教職員のICT教育活動を支援してまいります。

次に、小学生や高校生の通学を考慮し、「町民バス」(村田・蔵王間の定期路線バス)の運行経路、及び時刻を本年4月から見直し、学童・生徒が利用し易い環境を整えると共に、町民タクシーを10月から試行的に走らせ、その利用状況を見

極めて行きたいと考えています。

平成23年7月24日の「アナログ放送終了」に対処するため、昨年度に引き続き、地デジ「辺地共聴施設整備事業」において、難視対策として本年度は町内3か所（新町・曲竹鍛冶沢・円田入青木）の整備を実施いたします。

子育て支援事業として、「子ども医療費」の小学校6年生までの完全無料化や、「すこやか養育助成金」・「あったか支援金」の継続と小児用肺炎球菌ワクチン・ヒブワクチン・子宮頸がんワクチンなどの各種予防接種を無料で実施いたします。

子ども手当については、地方負担分を含めて全額負担を計上しております。

また、平成24年10月13日から15日に本町で開催される第25回「ねんりんピック」ゲートボール交流大会には全国から1,400名を超える参加者などが見込まれることから、本年1月に開催推進室を設置したところですが、4月からは職員5名体制で大会の成功に向けて、万全の体制づくりをしてまいります。

環境保全政策面では、一昨年6月、第四次長期総合計画に基づき「蔵王町環境保全宣言」を行ったことから、環境基本条例の制定に向け、本年4月より「環境政策課」を設置し、環境基本条例の早期制定や、ごみ有料化に向けて対応してまいります。



同時に、町民と行政が一体となった、循環型社会の形成に向けて、「住宅用太陽光発電システム」や「エコ・住宅補助金」などの補助制度施策を立ち上げ、今後の環境諸施策を効果的に推進して行きたいと考えております。

農業・観光面では「円田 2 期地区ほ場整備事業」は、事業費ベースで本年度末には約 74% の進捗率となります。

平成 24 年度完成を目指し、継続して事業の推進を図ってまいりますが、藪川の平沢堰につきましては、水利権の調整などが生じて来ることから、全体の完了予定は概ね、平成 27 年度になる見込みであります。

また、昨年に引き続き（財）日本サイクリング協会と「日本の蔵王ヒルクライム・エコ2011」を共催して、エコ・スポーツと交流人口増加を図りながら、宮城蔵王の全国的な認知度アップと、雄大な蔵王連峰の環境保全に配慮したエコ・スポーツとしての、自転車ロードレースを開催することで「環境保全宣言の町」として、内外に強くアピールしつつ、交流人口の一層の増加を図り、地域経済活性化を促してまいります。

尚、本年からこの大会は「乗鞍大会」などと同様に全国4大大会として格上げ認定され、シリーズ初戦として「シリーズポイント」が付与される予定となっていることから、より一層、メジャーな大会として、全国から参加者が増えるものと思っております。

建設関係では、幹線町道「永野・山の入・平沢線」の進捗率は事業費ベースで本年度末には、約89%になり、平成24年度完成を目指し、継続して事業の推進を図ってまいります。

県営事業・仙南広域農道負担金事業についても進捗率は事業費ベースで本年度末には、約70%になり、平成26年度完成を目指し、継続して事業の推進を図ってまいります。

また、町道「湯口線」の予備設計や「田中欠前線」の用地測量設計などを実施いたします。

災害対策では、小・中学校施設の耐震化は全て完了しましたので、本年度から計画的に「宮地区

公民館」の耐震補強工事や個人の木造住宅耐震改修工事助成制度を創設し、安全・安心の確保に努めてまいります。

そして、局地的な豪雨や地震などいつ起こるか分からない災害に備え、消防力の強化は基より、避難所の案内誘導看板の設置などを、昨年に引き続き行ってまいります。

学校教育面では、本年4月に円田・平沢・永野幼稚園の再編・統合されますが、その運営に当たっては、万全を期さなければならないと考えております。

尚、3幼稚園の再編・統合により、預かり保育など増加するサービス費を差し引いても運営経費は2,000万円を超える金額が縮減されたこ

とになります。

また、昨年度に引き続き「特別支援員」7名体制により小・中学校の発達障害に対する支援を行って参ります。学校給食の賄材料費は前々年度対比5%程値上がりしておりますが、児童・生徒の給食費保護者負担金は据え置きとするため、昨年度と同様に、一般財源を投入して対処してまいります。

最後に、平成22年度からの繰り越し事業として、「きめ細かな交付金」において町道・農道の維持補修を、更に「住民生活に光をそそぐ交付金」を活用し、図書館事業の整備・充実を、難視対策として、「地デジ辺地共聴施設整備事業」で山の入地区、円田入・川子石地区の整備を交付金の制

度上の関係から、平成 2 3 年度に繰り越すことと致しました。

以上、平成 2 3 年度を迎えるにあたりまして、私は覚悟をもって決断し、町政運営に取り組んで参りたいと考えております。

どうか、町民の皆様並びに議会の皆様のより一層のご理解・ご協力そしてご支援を心からお願い申し上げます、平成 2 3 年度の施政方針といたします。